

## はじめに

多くの方々のご理解と協力のもと、2009年10月7日から10日にかけて4日にわたるセミナー「南京を思い起こす 2009: 戦争によるトラウマの世代間連鎖と和解修復の試み」を無事に完了することができた。南京の地にアルマンド・ボルカス氏をファシリテーターとして招き、日中の若者たちでワークをするという企画を実現させるまでには、長い長い道のりがあった。

これまで、私は、心理療法家としての実践から得た社会的課題を解決するために新しいプロジェクトを起こすということをあれこれ試してきたが、それが実現していくためには、個人の意志と努力だけでは無理で、さまざまな人々の想いがつながり大きなうねりとなって社会を動かしていかなければならないことを感じてきた。このプロセスがひとたび動き始めると、あちこちで不思議な意味ある偶然が起こり始める。そうなれば、後は流れに従うのみだ。今回の企画は、そのようなうねりに乗って進んできたし、これからも進んでいくだろう。

具体的な内容については、本報告書から直接、感じとって頂けたらと願って、ここでは多くを語らないことにする。中国と日本の若者たちが手をつなぎ、慰霊する後姿を見ながら、希望を感じ、次世代や次々世代の未来のために余生を捧げたいと思った。報告書の内容は、いわば表舞台であり、裏舞台としては、毎日、昼食を共にし、毎夜、ファシリテーターと希望者とでプログラム評価を行い、さらに、日中の参加者と一緒に夜の街に出かけたりした。個別の対話や交流がたくさんあったことも付け加えておく。なお、時間的な制約上、今回は、セミナー実施の報告が主であり、たくさんの記録、映像、参加者のジャーナルなどに基づく分析と評価、今後の課題の抽出はこれから行うところである。

今回の企画は、立命館大学国際研究発信の助成を得て実現し、立命館大学人間科学研究所オープンリサーチ整備事業によって報告書発行が可能となった。この企画が実現する土壌を作ってくれた先達や、共にセミナーを実行したアルマンド・ボルカス氏と笠井綾氏にはもちろんのこと、寛大にもパートナーとして受け入れ先になってくださった南京師範大学・張連紅先生、素晴らしい通訳と同時に一貫して私たちに温かく心のこもったケアを提供してくださった南京

航空航天大学・羅萃萃先生、後方支援をしてくださった南京師範大学・傅宏先生と江蘇省行政学院・楊夏鳴先生、蘇州大学・黃辛隱先生、紙面の関係上、おひとりおひとりお名前を挙げるができないが、通訳、翻訳、記録などに力を貸して下さったたくさんの方のみなさん、参加者のみなさんにも感謝したい。

不思議な偶然と大きなうねりはまだまだ進行中である。このプロジェクトの今後の展開を楽しみにしたい。

2009年11月30日 村本邦子

## 起首語

在多方人士的理解与帮助下,2009年10月7日至10日、长达四天的研讨会—“回忆南京2009：战争引起的精神创伤的世代间连锁及和解修复的尝试”终于圆满结束。我们邀请了阿芒德·沃卡思教授主持，并于南京举行了中日青年参加的工作坊。为了这次企画得以实现，我们经历了漫长的道路。

作为一名心理疗法家，一直以来我都在做这样的尝试：推进各种各样的新项目来试图解决实践中我注意到的社会问题。但我也明白，仅仅靠个人的意志和努力是无法实现这个目标的。只有各界人士的思想相互贯穿形成如海啸的力量，才能推动社会。而这股力量一旦开始运动起来，就会在各个地方出现不可思议的、看似偶然的反应。到时候，我们只需顺流而下就可以了。我认为这次活动正是乘着这海啸般的力量才得以圆满开展，并且相信，今后这股力量还会持续前进。

我相信诸位都能从本报告中直接感受并了解本次活动的具体内容，因而不再在此赘述。目睹着中日两国的青年手拉手一起追思的背影，我不仅看到了希望，也决定将自己的余生奉献给下一代、下下一代的未来。报告书的内容为活动中舞台上的内容为主。舞台后，大家每天一起午餐，每晚主持者都与自愿参加者一起做活动评价，另外中日参加者也一起去逛了南京夜市，增添了很多个别对话及交流。另外由于时间关系，这次报告以研讨实施报告为主，以记录、影像、参加者的感受等为出发点的分析和评价、以及今后课题的选取会放在今后进行。

这次企画得到了立命馆大学国际研究发信的助成，并通过立命馆大学人间科学研究所开放调查整备事业，得以发行报告书。在此特别感谢：为我们的活动铺